



まんだらげ

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

2018 AUTUMN Vol.46



子授け銀杏

Contents

- 特集Ⅰ …… 和歌山県立医科大学附属病院における治療トピックス
- 特集Ⅱ …… 未来の医療を支える看護師特定行為研修
- Topics …… 「ダヴィンチ」による胃がん手術及び膀胱全摘除術
愛媛県へDMATロジスティックチーム隊員派遣
- Information …… 眼科学講座主催市民公開講座
「もっと知りたい 和歌山の最新の眼科治療」開催
市民公開講座「肝がん撲滅を目指して」開催
食事と健康Q&A

理念

私たちは安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

1 頭蓋底腫瘍手術

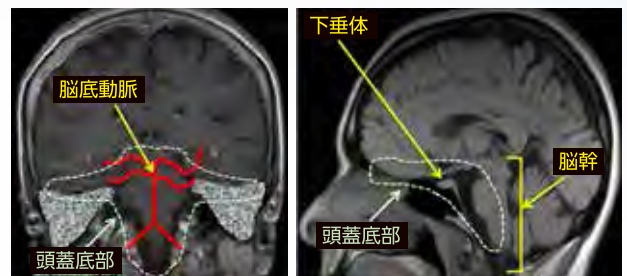
1 頭蓋底腫瘍とは

頭蓋底腫瘍とは頭の中心部で脳の底に相当する部分である頭蓋底部に発生する腫瘍です。脳の深い中心部には生命の中枢と言われている脳幹やその脳幹を取り巻く微細な血管・神経などが密集しています(図1)。これらを少しでも損傷してしまうと、重症の後遺症を残したり、生命に危険が及ぶ場合もあります。非常に繊細で深く難しいところであることから、数十年前では手術不可能とされていました。

しかし、近年脳神経外科手術にも高性能な手術顕微鏡や内視鏡、さらにコンピューター技術を使った手術ナビゲーションなどが導入され、かつては到達できなかった脳の深いところや頭蓋底部にできた腫瘍の摘出が可能

となりました。さらに放射線治療技術も進み、手術と放射線治療をうまく組み合わせることにより脳神経外科手術の中で最も難しいと言われてきた頭蓋底腫瘍の治療成績も向上しています。

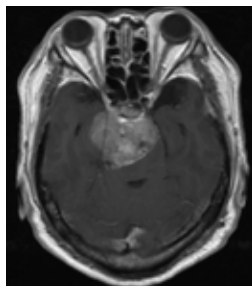
図1



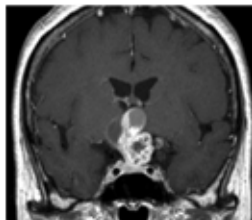
2 頭蓋底腫瘍の外科的治療

和歌山県立医科大学附属病院脳神経外科ではこの頭蓋底腫瘍の治療に積極的に取り組んできました。頭蓋底腫瘍の中には、下垂体腫瘍、頭蓋咽頭腫、頭蓋底髄膜腫、

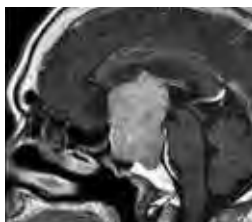
図2



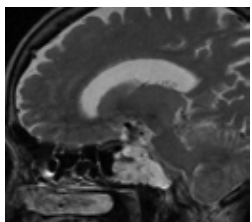
頭蓋底髄膜腫



頭蓋咽頭腫



下垂体腫瘍



脊索腫

さらに脊索腫などがあり(図2)、手術法は腫瘍の種類やその発生部位によって決定されます。一般的な脳神経外科手術と同様、頭蓋底腫瘍の手術も脳深部の病変やその周囲の微細な神経や血管を拡大するために顕微鏡を用いて行います(図3)。その一方で、下垂体やその周囲にできた頭蓋底腫瘍では、鼻の孔から挿入した内視鏡のみで摘出する経鼻内視鏡手術(図4)が応用可能で、従来の頭蓋底外科手術に比べて手術による患者さんの身体への負担が大変軽くなっています。これからもこの頭蓋底腫瘍に対して最新のテクノロジーと精緻な手術テクニックを兼ね備えた外科治療を実践していきます。

図3



顕微鏡手術

図4



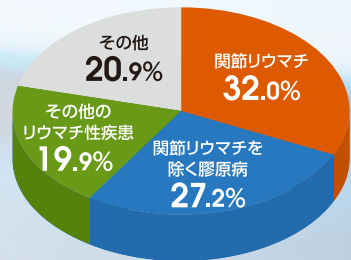
経鼻内視鏡手術

院における治療トピックス

2 関節リウマチ

当院では平成28年5月にリウマチ・膠原病センター（外来）を設置し、リウマチ・膠原病科を中心に皮膚科・整形外科と集学的治療を行っています。図1に受診患者の内訳を示しますが、関節リウマチは当科において最も頻度が高い疾患です。今回は関節リウマチの疾患概要とその内科的治療法を簡単に紹介します。

図1. 外来における当科の診療状況 (合計1579例)



(平成30年5月31日まで)

1 関節リウマチとはどのような病気か

図2に示すとおり、両方の手・手指の小さな関節が炎症により溶けて変形してしまうとともに、強い痛みを伴う疾患です。リウマチとは「痛みが流れる」という意味で、手



図2. 関節リウマチの破壊性関節炎

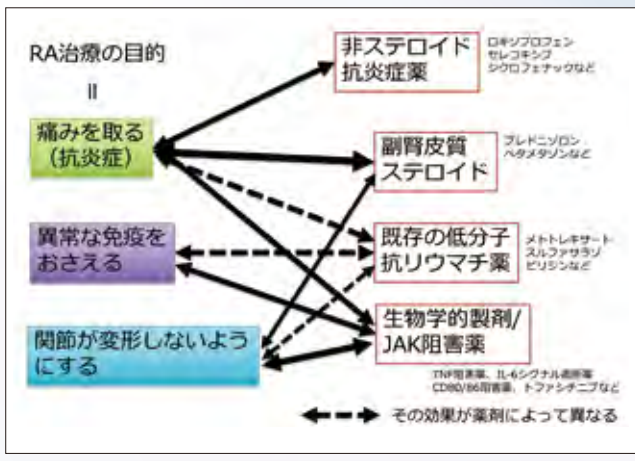
だけでなく他の関節も傷害されるため、強い症状が残ったまま放置すると若い方でも車椅子生活になる可能性があります。初期は「朝起きたときに手がこわばる（1時間以上）」「数か所の関節が痛む（通常手首や指の関節）」といった症状から始まります。原因がわからず2週間以上、多関節が腫れてしまう場合には早めに検査を受けるようにしてください。なお、抗リウマチ治療は著しく進歩しており、早期から専門医を受診すればかなりの確率で「寛解状態」（薬剤は使用しているが、発症前とほとんど同じ生活が送れること）にすることが可能です。

2 関節リウマチの内科的治療法

関節リウマチは「発病に免疫の異常が関係し」「炎症が本体（癌ではない）となる」疾患のため、炎症を抑える薬や免疫を調節する（あるいは抑制する）薬を使うことが原則です。近年ではこれらに加え、関節リウマチの悪玉タンパク質（炎症性サイトカイン）を強く抑制する生物学的製剤（注射薬）やJAK阻害薬（経口薬）が使用できる（図3）ため、多くの患者さんで図2のような変形を未然に防ぐことができるようになってきました。

関節リウマチはしばしば慢性化しますので、患者さん自身が納得して治療を受けることが重要です。もしお役に立てることがあればご相談ください。

図3. 関節リウマチの薬物療法



特集 Ⅱ

未来の医療を支える 看護師特定行為研修

■ 特定行為に係る看護師の研修制度について

“特定行為”とは看護師が行う行為のことで、「気管カニューレの交換」や「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」「脱水症状に対する輸液による補正」などを指します。また“特定行為研修”とは、看護師がこれらの行為を取得するために、1年以上の特別な訓練を受ける研修制度のことをいいます。

この制度ができた背景には、少子高齢・多死社会を目前

にし、病気を抱えながら生活をする人が増えていく中、患者さんが安心して高度医療や在宅医療を受けられる仕組みを推進していることにあります。厚生労働省はこの研修制度を「未来の医療を支える研修制度」と位置づけ、10万人以上の修了者を養成する目標を掲げています。和歌山県下では、本学が2017年度に厚生労働省から指定機関の認可を受け開講しています。

■ 特定行為の安全性と看護師が行う意義

前述の背景を受け、看護師の職務を規定する「保健師助産師看護師法」も一部改正され、特定行為に係る看護師の研修制度が平成27年10月に施行されました。

特定行為研修を受講していない看護師は、患者さんの状態に異常があると判断した場合、まず医師に報告のうえ指示を受け、必要な処置を施しています。これに対し、研修を修了した看護師は、医師があらかじめ作成した手順書に則って患者さんの状態を判断し、必要な医療行為をタイムリーに実施することが可能になります。手順書とは、看護師が実践できる範囲を示しており、その手順書に則って実践するため、安全な行為を提供することができます。

看護師は本来、患者さんへのアプローチとして、疾患の

治療と生活の両面から考えた支援を行いますので、特定行為のスキルをもった看護師が実践することは、患者さんの満足度を確実に高めると考えています。



特定行為研修を修了した
看護師ができること

(例:患者さんの脱水の兆候に気付いた場合)

特定行為をもった看護師に望むこと ～メッセージ～

在宅医療を支えていく医療人として

2025年問題に向けた医療提供体制の改革の一環として、『地域における質の高い医療の確保、質の高い医療の基盤の整備』を行うにあたり、診療の補助のうち特定行為を明確化し、看護師の研修制度が創設されました。このかかる状況から、本学は指定研修機関として既に研修を開始しています。

これからの在宅医療を支えていく医療人としての活躍を期待しています。

和歌山県立医科大学 理事長・学長 宮下 和久

グレードアップした看護師に期待すること

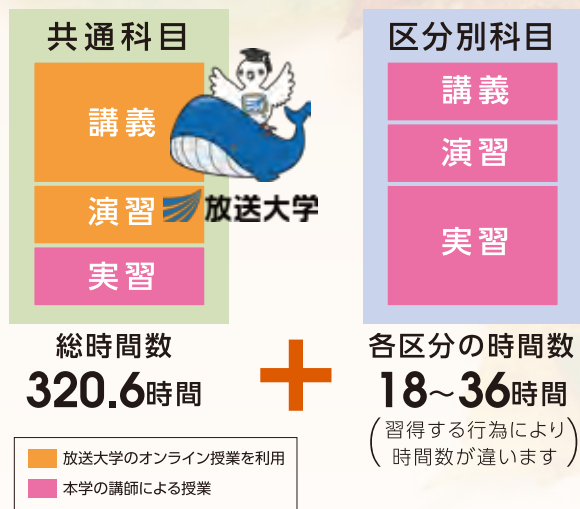
特定行為研修を修了された看護師のみなさん、いままでの長く厳しい研修を見事に修了されました。この制度は医療における看護師の役割がさらに大きくなることに寄与するきわめて大切なもので、まさにチーム医療の中心となって患者さんのケアにあたることとなります。すなわち、みなさんはグレードアップした看護師ということになり、実践的な医療の要になるのはもちろん、若手看護師の育成にも尽力して頂くことを期待しています。

今後とも引き続き学ぶ姿勢を忘れずにご精進下さい。

和歌山県立医科大学附属病院長 山上 裕機

■ 和歌山県立医科大学の特定行為研修 ～働きながら学べる研修システム～

大学の特定行為研修に定められた特定行為は、6行為です。研修スケジュールは、すべてに共通して学ぶ「共通科目」と特定行為の区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれており、受講期間は働きながら継続しやすい約1年半のスケジュールで設定しています。また本学では、「共通科目」の講義および演習を、通信制大学・大学院の放送大学と提携しています。放送大学のオンライン授業を利用することで自分の時間を自由に工面して学習することができ、仕事と学習を両立しやすくしました。「共通科目」の実習や「区分別科目」においては、本学の講師が担当します。講師陣は大学病院で教育経験を積んだ医師・看護師による充実した構成です。



I期生実習の様子(シミュレーターを使った診察技術の実習)

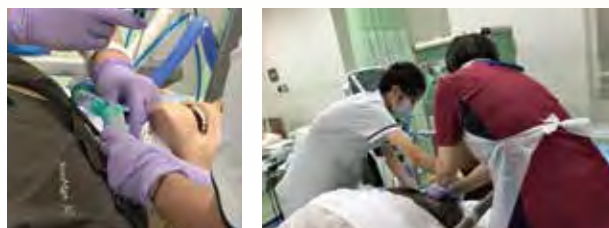
研修を運営する本学看護キャリア開発センターは、受講生同士が交流できる環境づくりや、高性能シミュレーター・図書館など、大学ならではの充実した設備・施設の利用など、多角的に受講生の学習をバックアップできる体制を整えました。

■ 特定行為研修修了者の実際

本学では9月28日に第I期生4名が研修を修了しました。3名が「気管カニューレ交換」を、1名が「栄養及び水分の輸液の調整」の特定行為を学びました。修了生が働く場所は、地域密着型の医療療養病床の認可を受けている病院や訪問看護ステーションです。これらの行為を取得することで、修了生が働く病院や訪問先では、手順書を基に気管カニューレ交換を看護師が行い、また患者さんの栄養状態などをアセスメントして点滴の内容や流量を調整することができるようになります。

本研修の実習では、受講生は納得いくまで練習した上で、

難易度の高い試験を受けます。そういった研修制度が安全で質の高い特定行為の実践に繋がります。皆様も特定行為をもった看護師のケアを受ける機会があると思いますが、安心してケアを受けていただければと思います。



習得した知識・技能を求められる場所で生かす

特定行為研修の目的は、今後加速が予想される高齢化社会に向けて、さらなる在宅医療等の推進を図っていくために医師の判断を待たず、あらかじめ医師が作成した手順書により一定の処置ができる看護師を養成することにあります。

和歌山県立医科大学で特定行為研修を修了されたみなさんが、ここで習得した知識・技能を生かして、それぞれの活動場所で求められる看護師としての役割を十分に発揮されることを願っています。

和歌山県立医科大学特定行為研修管理委員長
 脳神経外科教授 中尾 直之

受講に関する詳細は、
看護キャリア開発センター
HPをご覧ください

和医大 看護キャリア開発センター **検索**

「ダヴィンチ」による胃がん手術及び膀胱全摘除術

当院では、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を平成24年12月に導入し、前立腺全摘除術、腎部分切除術及び胃がん手術などを行っています。また、平成29年12月には最新機種「ダヴィンチXi」に更新するとともに、「ダヴィンチSi」も導入し、2台体制となっています。

これまでに第2外科では36例のロボット支援下胃がん手術を行ってきました。今までの腹腔鏡胃がん手術と比較して、ロボット胃がん手術は、手術時間は長いものの出血量は少なく、さらに術後膀胱ろうの合併症はゼロという結果でした。ロボットの特性である鮮明な3D画像及び可動域を有するロボット鉗子は術後合併



症を軽減できる可能性があります。第2外科では尾島敏康講師(規定術者、Certificate)、中森幹人准教授(Certificate)、中村公紀講師(Certificate)が執刀しています。

また、泌尿器科領域では、平成30年4月からロボット支援膀胱全摘除術が保険適用になりました。膀胱がんに対しては根の浅いがんでは尿道からの手術で完全切除が可能ですが、根の深いがんでは膀胱をすべて摘除する膀胱全摘除術が施行されます。従来開腹手術や腹腔鏡下手術で行われてきましたが、「ダヴィンチ」を用いることにより精細な手術が可能で、今後の主流になることが予想されます。

*規定術者……Certificateを有し、かつ10例以上のロボット胃がん手術の経験を持つ医師

*Certificate…ダヴィンチを操作できる認定資格を持つ医師



愛媛県へDMATロジスティックチーム隊員派遣

平成30年7月10日に西日本豪雨の被災地である愛媛県へDMATロジスティックチームを派遣しました。DMATとは、災害時に被災者の生命を守るため、被災地

に駆けつけ、救急治療をはじめ様々な医療支援を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。今回は、災害医療本部の支援や情報収集等を担うロジスティックチームとして隊員2名(放射線技師1名、看護師1名)を派遣しました。2名の隊員は現地でそれぞれ西予市の被害状況の調査、大洲市の福祉センターにおける支援活動、八幡浜市の保健所における本部活動及び愛媛県庁内の調整本部での活動に従事し、情報の集約などを行いました。

隊員2名は5日間の任務を終え、7月14日に和歌山に到着し、帰任式において現地での活動を報告しました。無事に任務を終えた隊員には、スタッフから温かい拍手が送られました。



眼科学講座主催市民公開講座

「もっとしりたい 和歌山の最新の眼科治療」開催

眼科学講座では、市民・県民の方に身近な眼の病気の治療法等について知ってもらうため、毎年市民公開講座を開催してきました。去る平成30年6月30日には記念すべき第25回目の公開講座を開催し、医師4名が「最新の眼科治療」について講演を行いました。

最初の講演は小門正英講師による『なみだ目にも内視鏡?』。涙道閉塞による涙目について、直径0.9mmの非常に細い内視鏡を用いることで、病変を肉眼で確認しながらより安全な手術が可能になってきていることを紹介しました。

2つ目の講演は、『多焦点眼内レンズとレーザー白内障手術』について。岩



西宏樹講師は、多焦点眼内レンズの種類や特徴、またフェムトセカンドレーザーを使用した白内障手術のメリットについて説明しました。

続いて、『日帰り硝子体手術も可能な時代に』というタイトルで住岡孝吉講師が講演。近年の手術器具の発展により、黄斑前膜や硝子体出血などの一部について、安全に日帰り手術ができるようになってきていると話しました。

最後は、雑賀司珠也教授による『LASIKを超える最新レーザー近視手術』について。角膜を薄く大きく削ぐ従来のLASIKとは異なり、角膜内部を面状に切断し、強度や神経を保つことのできるスマイル手術が開発されたことを紹介しました。

今後も眼科学講座では、眼の病気に係る最新情報を市民・県民の方々に積極的に発信していきます。

市民公開講座 「肝がん撲滅を目指して」開催

日本肝臓学会、当院肝疾患相談支援センター（消化器内科）及び和歌山県共催の市民公開講座が平成30年7月22日に開催されました。当院からは清水遼助教と井田良幸講師が講演しました。

清水助教は『放置していませんか?B型肝炎』と題し、B型肝炎を放置するとやがて肝がんに行進することやウイルスが再活性化する可能性があることから、定期的な検査の必要性を啓発しました。また、従来のインターフェロン療法に加え、核酸アナログ製剤という新しい薬が開発されていることを紹介しました。

当院の肝疾患相談支援センター長も務める井田講師は、『C型肝炎を知って治そう』と題し、インターフェロンフリー治療薬の種類やその効果について説明し、安全かつ短期間でウイルスを体内から排除できるようになってき

ていることを紹介しました。また、治療薬の特徴により、自分に合った適切な治療を受けるよう呼びかけました。

当院の肝疾患相談支援センターでは、患者さんやご家族からの相談を専任看護師が受け、適切な医療を安心して受けられるように支援しています。「病気が進んでいないか心配」「治療費はどれくらいかかるの?」など肝臓の病気に関する不安や心配事があれば遠慮なくご相談ください。



■ 肝疾患相談支援センター（消化器内科外来内）

- 相談受付 TEL 073-441-0850
- 相談日 月曜日～金曜日 午前9時～午後4時（祝日・年末年始を除く）
- 相談方法 面談（予約制、無料）

食事と健康

Q&A

Q 便通を整えるためにはどんな食事をすれば良いですか?

A 腸内環境を整えることが大切です。大きく分けて2つの方法があります。

① 体にとって良い働きをする善玉菌を直接摂取する（プロバイオティクス）

善玉菌はヨーグルトや納豆、味噌などの発酵食品に多く含まれます。

② 善玉菌のエサとなる食物繊維やオリゴ糖を多く含む食品を摂取する（プレバイオティクス）

食物繊維は野菜やきのこ、海藻、豆類に、オリゴ糖はキャベツや玉ねぎ、りんごやバナナなどに多く含まれます。

また①と②を組み合わせるとさらに効果的です（シンバイオティクス）。良い腸内環境を維持するためには毎日の積み重ねが大切です。普段から善玉菌や食物繊維、オリゴ糖の摂取を心がけましょう。



予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援
センター

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。



「病院待合番号」アプリのインストールにより外来の待合番号モニターをスマートフォンでご覧いただけるようになりました。

アプリから当院を検索し、「待合番号モニター」を選択の上、診療科を選択いただくと、診察の順番を確認できます。ぜひご利用ください。



待合番号

検索



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

<外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。